

日本中東学会ニューズレター

JAMES
NEWSLETTER



No.146
2017/2/25

目 次

理事会報告.....	2
第 22 回公開講演会報告.....	3
日本中東学会第 33 回年次大会暫定プログラム.....	8
韓国中東学会 2016 年度年次大会参加記.....	13
AJAMES 編集委員会報告.....	14
寄贈図書.....	15
会員の異動.....	15
事務局より.....	17
編集後記.....	17

理事会報告

【2016 年度第 2 回理事会】

日時：2016 年 10 月 31 日（月曜日）13 時～16 時 30 分

場所：同志社大学東京オフィス会議室

出席：赤堀、飯塚、粕谷、栗田、黒木、近藤、東長、保坂、松本、森本、森山、
山岸

欠席：江川、大稔、山口（以上、委任状あり）、林

〔報告〕

1. 第 11 回 AFMA 大会（ウランバートル）への参加について
2. AJAMES 32-2 号の編集状況について
3. 大会託児所担当事務局補佐に後藤絵美会員を選任したことについて
4. 2017 年度大会について
5. 2016 年度公開講演会の準備状況について

〔議題〕

1. 2016 年度科研費（研究成果公開）の使途について（事務局の説明を承認した）
2. 2017 年度公開講演会と科研費申請（研究成果公開）について（開催と申請を承認した）
3. 2016 年度科研費（国際情報発信強化）執行状況について（編集委員会と事務局の説明を承認した）
4. 2017 年度科研費（国際情報発信強化）申請について（申請を承認した）
5. 電子ジャーナル公開プラットフォームの NII-ELS から J-STAGE への移行について（編集委員会の説明を承認するとともに、ファイルの管理などについて検討した）
6. 退会に関する規程・事務手続きについて（検討した）
7. 評議員選挙の準備と選挙管理委員選出について（会長と事務局に一任することを承認した）
8. データベースの今後について（検討した）
9. IAS シリーズへの援助について（検討した）
10. 30 周年記念座談会記録の編集・刊行作業について（次期理事会へ申し送りとした）
11. 日本中東学会奨励賞の選考委員会立ち上げについて（承認した）
12. 韓国中東学会国際会議への参加について（事務局長の派遣で調整）

（森山央朗 事務局長）

第 22 回公開講演会「観光—イスラーム世界の新しいライフスタイル」

2016 年 11 月 20 日（多治見）報告

第 22 回公開講演会を多治見市バロー文化ホールで開催しましたので、ご報告いたします。講演会開催に際しては、日本学術振興会科学研究費研究成果公開促進費の助成を受け、共催団体として多治見市国際交流協会の協力を得ました。

岐阜県多治見市は、名古屋から電車で 45 分ほど、中部地方に位置し窯業で有名な地方都市ですが、近年は、中部・北陸地方を龍の形に見立てた「昇龍道」ルートとして観光の推進に力をいれるようになっていきます。

今回の公開講演会は、中東やムスリムについての知識にふれる機会の少ないところで、中東やイスラームについて既成概念を見直してもらうために、これまでにない切り口で、ムスリムたちの世界を紹介する、という新しい試みでした。これはまた、待ったなしで進行するグローバル化のなかで、ムスリムたちの社会が急激な変容をみせている現在、これまでにない移動の形態—観光も盛んになっている状況を解析してみせる、という地域研究としても野心的な企画だったといえるでしょう。

講演会は、古川雅典多治見市長による歓迎の挨拶で始まり、趣旨説明に引き続き、安田慎会員、堀抜功二会員、そして、小林寧子南山大学教授によるそれぞれ 40 分の講演がありました。講演の後には、質疑応答と、東長靖日本中東学会会長からの閉会の挨拶がありました。

安田会員による講演「観られる人びとから観る旅行者へ—イスラーム世界の観光市場とムスリムたち」では、「西洋」によってノスタルジックな思いや欲望を満たすために訪れる場所であった「イスラーム世界」が、自発的に大衆が「観光する」世界へと変貌してきた経緯が、明快に説明されました。

それに引き続き、堀抜会員が「ドバイは一日にして成らず—中東・湾岸産油国における航空競争と観光戦略の展開」というタイトルで、「ドバイ・モデル」ともよばれる観光立国をめざす湾岸諸国の例を、ビデオや写真などを豊富に使って紹介しました。

そのあとの休憩時間では、ムスリム諸国の衣装の試着やアラビック・コーヒー、バクラバやナツメヤシなどの甘いものを来場者に楽しんでもらっています。

休憩後、南山大学的小林寧子教授を講師に迎え、「インドネシア—民主主義大国への道」というタイトルで、インドネシアの文化的・地政学的な位置づけから、近年の市民的な運動とイスラームの関連についてお話いただきました。講演の最後には全員で「terima kasih!」（インドネシア語で「ありがとう」）と言って、和やかな締めとなりました。質疑応答の時間にも、熱心な討論が行われました。

講師の方々が、パワーポイントを効果的に使って、わかりやすく、親しみやすく、お話しくださったおかげで、イスラーム世界についての話を聴くのは初めてという来場者にも、かつて中東・北アフリカに赴任したことがあるという来場者にも、満足してもらえたようです。

来場者は60名余り、会場はほぼ満杯となりました。全然聴衆が来ないのではとの多治見市国際交流協会の関係者のご心配は、杞憂に終わりました。来場者アンケートによると、講演会を知ったのは、国際交流協会のチラシ・新聞などの記事でという回答が25、中東学会の関係者からという回答が24ということで、多治見市側と学会側の双方の努力がほぼ同率で効果をあげたと考えられます。この場をかりて、広報にご協力くださった会員の皆様に御礼申し上げます。また、こういう機会は滅多にないから、と近隣の市町村からこの講演会のために来てくれた人もいたとききました。

予算の都合で、関西からも東京からも日帰りで行けるような日程にしたために、多治見市の方々の、もっと多治見を知ってほしい、という気持ちに伝えることができず、その点についてはとても残念でした。しかし、いわゆる政令指定都市ではない、中東研究をしている大学や研究期間のない地方都市において、中東やムスリムの生活世界を知ってもらう企画としては概ね成功であったと思っています。

改めて、いきなりの企画に驚きながらもご尽力くださった多治見市役所ならびに多治見国際交流協会のみなさま、お忙しいなか時間を割いてご講演くださった講師のみなさま、そしてさまざまな雑務をお引き受けくださったみなさまに心より感謝申し上げます。

(山岸智子)



[古川雅典多治見市長]



[安田慎会員による講演]



[堀抜功二会員の講演を熱心に聴く聴衆]



[休憩時間～お菓子とアラビック・コーヒーも好評]



[小林寧子教授による講演]



[臨席の東長靖会長]



[衣装を試着してお菓子を試食する多治見国際交流協会メンバー]

日本中東学会第33回年次大会暫定プログラム

会場：九州大学 箱崎キャンパス 法文講義棟

※時間・報告順は変更となる場合があります

大会参加申し込みについて：

3月上旬に、全会員に「仮プログラム」と「振替用紙」を郵送でお送りします。また、メーリングリストおよびウェブサイト上でも随時告知いたしますのでご確認ください。

1日目：2017年5月13日（土）

13:00-17:00 公開シンポジウム

〔詳細は調整中ですが、昨年、九州大学箱崎キャンパスから元寇の防塁が発掘されたことにちなみ、イスラムとモンゴルに関する講演会を企画しております。中町信孝氏（甲南大学・マムルーク朝史）、舩田善之氏（広島大学・モンゴル史）ほかに登壇していただく予定です。詳細が決定次第、メーリングリスト等で告知いたします。〕

17:15-18:15 日本中東学会総会（会員のみ）

18:30-20:30 懇親会

2日目：2017年5月14日（日）

【企画セッション】

12:40-14:40 企画セッション1

「イスラーム・ジェンダー学の未来—国家・宗教・セクシュアリティの重層性をめぐって」

企画・司会 後藤絵美（東京大学）

報告1 保井啓志（東京大学・院） 「愛国主義・排外主義と性的少数者—イスラエルを事例に」

報告2 澤口右樹（東京大学・院） 「イスラエル国防軍の女性兵士—国家と宗教の狭間で」

報告3 鳥山純子（桜美林大学） 「生殖補助医療の利用現場からみたエジプト社会のイスラーム」

12:40-14:40 企画セッション2

「望ましいアラビア語教科書とは—教授法の見地から」

企画・司会 榮谷温子（慶應義塾大学）

報告 1 近藤久美子（大阪大学）「アラビア語の文法履修—国内外の教科書の事例から」

報告 2 岡崎英樹（四天王寺大学）「外国語教授法の変遷からみた EMSA」

報告 3 榮谷温子「第二言語の項目の習得順序やその難易」

コメンテーター未定

12:40-14:40 企画セッション 3

Toward Multilayered Relations between the Gulf and Asia

Organizer: NAKAMURA Satoru (Kobe University)

Moderator: Abdullah BAABOOD (Qatar University)

1. Steven WRIGHT (Qatar University)

“The Impact of the Changing East-Asian LNG Market on Qatar’s Energy Policy”

2. NAKAMURA Satoru

“Challenge of Japan to Build Multilayered Relation with Qatar”

3. HORINUKI Koji (The Institute of Energy and Economics, Japan)

“The Japan-UAE Relationship: Focus on the Role of Friendship Association”

Discussants: YOKOTA Takayuki (Meiji University), Abdullah BAABOOD

12:40-14:40 企画セッション 4

Saudi Arabia Paths towards New Moderation and Future Measures in 2030 under the Current Political Turmoil

Chairman: Essam BUKHARY (King Abdul Aziz University)

1. Alhasan ALMANAKHRAH (Prince Khalid AL-Faisal Centre for Moderation)

“Saudi Arabia, Extremist Measures, and Moderation in 2030 Vision”

2. Tariq ELYAS (King Abdulaziz University)

“Examining New Media Usage in Compacting Extremism Behavior and Attitude in Saudi Arabia”

3. Almaddah AMR (King Abdulaziz University)

“Dealing with the Ugly Face of Social Media and Digital Crimes: The Case of Saudi Arabia”

【個人研究発表】

第一部会

9:45-10:25 Qolamreza NASSR (Hiroshima University)

“Movements toward Democracy in Iran: Reciprocal Influence of Ulama and Intellectuals”

10:30-11:10 SATO Noriko (Pukyong National University)

“Constructing Ethnic Identity among the Syriac Orthodox Christians in North-eastern Syria under the Syrian Civil War”

11:15-11:55 Scott MORRISON (Middlesex University)

“Islamic Banking in the Islamic Republic of Iran”

第二部会

9:00-9:40 森山央朗 (同志社大学)

「10-12 世紀におけるホラーサーン系「ハディースの徒」の理論展開と自己認識」

9:45-10:25 篠田知暁 (東京大学)

「アラウィー朝期ファースにおけるマジュズーブ」

10:30-11:10 中町信孝 (甲南大学)

「イブン・アイニーの生涯」

11:15-11:55 橋爪烈 (千葉科学大学)

「ルトフィー・パシャのカリフ論—その思想的背景」

14:50-15:30 徳永佳晃 (東京大学・院)

「17 世紀後半におけるサファヴィー朝とムガル朝の外交関係の転換—アウラングゼーブ即位時における両朝の使節の交換に着目して」

15:35-16:15 朝田郁 (京都大学)

「ハドラーミ移民の生きる世界—インド洋西海域を旅したアラブの軌跡」

16:20-17:00 近藤信彰 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

「サファヴィー朝期法廷制度再考」

第三部会

9:00-9:40 秋葉淳 (千葉大学)

「ディーワーンと法廷—18 世紀オスマン帝国の地方における司法行政 (仮)」

9:45-10:25 岩本佳子 (日本学術振興会特別研究員)

「参照資料としての租税台帳—オスマン朝行政における 17 世紀以降の租税台帳の活用に関する考察 (仮)」

10:30-11:10 佐治奈通子 (東京大学・院)

「15-18 世紀におけるオスマン朝の鉱山開発：開発に関係する組織の構造と開発プロセスの分析から (仮)」

11:15-11:55 永島育 (早稲田大学大学・院)

「アブデュルハミト二世時代におけるオスマン語の地理叙述について」

14:50-15:30 宇野陽子 (津田塾大学)

「トルコにおける女性参政権の導入—国家フェミニズムと女性運動」

15:35-16:15 山崎暁 (京都大学・院)

「現代トルコのアラウィー派 (ヌサイリー派) 市民団体による自己表象 (仮)」

16:20-17:00 幸加木文 (千葉大学)

「2016 年クーデタ未遂事件が示すトルコの「イスラーム派」の対立の変遷 (仮)」

第四部会

9:00-9:40 今井宏平（日本貿易振興機構アジア経済研究所）

「シリア難民の定住に向けた一考察—トルコの過去の難民受け入れとの比較研究」

9:45-10:25 縄田浩志（秋田大学）

「黒サンゴ製の数珠“sibhat al-yusr”の特質について」

10:30-11:10 李眞恵（京都大学・院）

「多民族国家カザフスタンの国民統合における現代的な課題（仮）」

11:15-11:55 池田昭光（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）

「宗派主義的社会と相互行為—レバノンのフィールドワーク資料を例に（仮）」

14:50-15:30 佐藤麻理絵（日本学術振興会特別研究員）

「現代ヨルダンにおけるホスト社会形成—レジティマシーをめぐる一考察（仮）」

15:35-16:15 千坂知世（大阪大学・院）

「イラン国会の民選機関としての制度的意義—第9期国会の特別委員会と核合意承認（2015）を事例に」

第五部会

9:00-9:40 鷺見朗子（京都ノートルダム女子大学）、鷺見克典（名古屋工業大学）

「アラビア語の学習動機づけ向上を目指した学習講座—「アラビア語集中講座合宿」の実施と効果の検証」

9:45-10:25 アブドーラ・アルモーメン（東海大学）

「日本語・アラビア語の視点と表現の相違」

10:30-11:10 竹田敏之（京都大学・院）

「湾岸衛星放送・インターネットを通じた現代アラビア語の多様化とその展望」

11:15-11:55 相楽悠太（東京大学・院）

「イブン・アラビーによる「心が神を含む」という神聖ハディース解釈—先行スーフィーとの比較を通じて」

14:50-15:30 大淵久志（東京大学・院）

「ファフルッディーン・ラーズィーの天使論と倫理思想」

15:35-16:15 早川英明（東京大学・院）

「マフディー・アーミルの宗派主義に関する理論（仮）」

16:20-17:00 桐原翠（京都大学・院）

「ハーシム・カマーリーの現代イスラーム思想—ウンマ論とワサト主義を中心に（仮）」

第六部会

9:00-9:40 清水学（前帝京大学）

「金融資本主義の現段階と中東経済論」

9:45-10:25 岡室美恵子（NPO 研修・情報センター）

「ヨルダンの貿易政策と貿易構造の変遷」

10:30-11:10 安田慎（帝京大学）

「社会関係規範とサービスの狭間—イスラミック・ホスピタリティのなかのディヤーフア論（仮）」

11:15-11:55 竹村和朗（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）

「ワクフは所有権か？—エジプト 2012 年憲法制定時の議論から」

14:50-15:30 池邊智基（京都大学・院）

「宗教実践としての労働—セネガル・ムリッド教団の共同体バイファルの事例（仮）」

15:35-16:15 須永恵美子（京都大学・院）

『人間の経済的問題とそのイスラーム的解決策』の出版とその再編—マウドゥーディーによる近代イスラーム経済学の始まりと初期の思想（仮）」

第七部会

9:00-9:40 今野泰三（大阪市立大学）

「「入植地問題」研究と宗教シオニズム研究の架橋（仮）」

9:45-10:25 金城美幸（日本学術振興会特別研究員）

「パレスチナ亡命以前のハーッジ・アミン・アルフセイニーの軌跡—委任統治における「政治」と「宗教」の序列のなかで」

10:30-11:10 児玉恵美（日本女子大学・院）

「レバノンのパレスチナ解放運動（1969 年—1982 年）—難民キャンプにおける動員と参加から」

11:15-11:55 山本健介（京都大学・院）

「聖地阿克サー・モスクの帰属をめぐる競合—ヨルダンの関与と現地組織の対応をめぐって」

14:50-15:30 鈴木啓之（日本学術振興会）

「一般パレスチナ人の回顧録から見る中東現代史（仮）」

15:35-16:15 池端蒨子（京都大学・院）

「ウンマ・汎イスラーム主義・国民国家—OIC 研究序論」

16:20-17:00 臼杵悠（一橋大学・院）

「アンマン世帯調査から見る移住国家ヨルダン」

第八部会

9:00-9:40 店田廣文（早稲田大学）

「在日イスラーム団体における機能付与—法人運営を中心に（仮）」

9:45-10:25 岡井宏文（早稲田大学）

「在日イスラーム団体の形成と諸活動の展開—タブリーギー・ジャマーアトを中心に（仮）」

10:30-11:10 子島進（東洋大学）

「ボランティア活動を通して見えてくるイスラームの価値観—比較文化論の視点から」

11:15-11:55 リーム・アハマド（カイロ大学）

「エジプト人の日本発見一日露戦争より戦間期にかけて」

14:50-15:30 岡崎弘樹（独立研究者）

「シリアの記録映画にみる政治的、社会的矛盾の表象—オマル・アミララーイの農村三部作を通して」

15:35-16:15 外山健二（山口大学）

「アメリカ文学のイスラーム—第一次報告（仮）」

16:20-17:00 小島宏（早稲田大学）

「西欧ムスリム移民二世におけるコーラン教室通学と宗教的食事制限」

（小笠原弘幸 大会実行委員会事務局長）

韓国中東学会 2016 年度年次大会参加記

ご承知のとおり、本学会と韓国中東学会（KAMES）は緊密な協力関係を築いています。双方の会員は双方の年次大会で研究発表を行うことができますし、会長や理事などを招待し合ってもきました。今年度の慶應義塾大学での本学会の年次大会には、KIM Jong-Do 会長と KIM Suwan 事務局長を招待しました。そして、その「答礼」というと大げさですが、12 月 3 日にソウルの韓国外語大学校で開かれた KAMES の年次大会には、事務局長の森山が招待されて参加しました。東長会長と国際交流担当理事につきましては、残念ながら本務などの都合が付かず、今回は森山のみの参加となりました。

さて、その KAMES 年次大会は、12 月 3 日の 13 時 30 分に KIM Jong-Do 会長の挨拶で始まり、同日の 17 時 30 分頃まで、3 つのセッションで、合計 11 本の研究発表が行われました。このうち、英語で行われた研究発表は、私のものを含めて 4 本でした。それらの 4 本とは、Mohamed Elaskery 氏による中東における韓国ポップカルチャーの受容の分析、新羅におけるサーサーン朝石彫芸術の影響を論じた Daryoosh Akbarzadeh 氏の発表、国際市場へのイランの「復帰」を論じた Hajir Afzali 氏の発表、それに、「ハディースの徒」と自称したハディース学者たちの学統の歴史的展開と地理的分布に関する私の報告でした。

私は、恥ずかしながら韓国語を学んだことがなく、内容を把握できた研究発表は、自分のものを除くと、英語で行われた上記の 3 本のみでした。とはいえ、有名なジャーヒズの『けちんぼたち』と、11 世紀の著名なハディース学者、ハディース・アル＝バグダーディーによる同名の論説の比較を行った KIM Jeong A 氏の研究発表は、ハディースが「ハディースの徒」の重鎮であったことなど、私の研究と関連する内容であっただけに、韓国語の発表を聞いているうちに、何となく分かったような気になることもできました。また、各発表に 1 名のコメンテーターがつき、丁寧な質疑と議論が行われていたことも印象的でした。

自分の発表に関しては、KAMES 側からテーマなどの指定がなかったので、個人研究に基づいた上述の内容で楽しく準備していきました。その反面、前号の AFMA 大会報告でも書いたとおり、KAMES の会員は、その大多数が現代研究を専門としているため、11 世紀頃を中心とした前近代史の発表を聞いてくれるのが不安でした。しかし、実際には、20 名以上という、本学会の年次大会での発表よりも多くの方々に聞いていただき、コメンテーターの PARK Hyondo 氏から非常に的確で有意義なコメントをいただくこともできました。

発表の後で PARK Hyondo 氏と話したところによると、韓国における中東研究は、確かに、国際政治や経済学などの分野で現代を対象とするものが主流である一方で、少数ながら、古典思想や文学、歴史学などを専門とする研究者もいるとのことでした。そうした少数の人文・古典分野の研究者は、自分たちの研究について、専門的で細かい発表や議論をする場が少ないことにフラストレーションを感じているそうです。日本の場合には、逆に、人文・古典分野（特に歴史学）が長く多数派を占め続け、最近になって、現代研究の割合が大きく上昇しています。現代研究と古典研究のバランスを取り、両者の建設的な連携を築いていくことは、日本でも韓国でも大きな課題なのかもしれません。

なお、年次大会の終了後、総会が行われました。本学会では、総会は、会員のみに出席を限定していますが、KAMES の総会には、私も傍聴を許されました。韓国語での議事を理解できたわけではありませんが、後で確認したところ、会長などの役員の交代が承認されておりました。これまでの会長の KIM Jong-Do 氏に変わって、CHOE Young-Chol 氏が新会長となり、これまでの事務局長の KIM Suwan 氏は、国際交流担当理事となりました。蛇足ですが、総会の最後に、「来賓」として私も挨拶させられまして、私のつたない英語が、本学会の評判を落とすようなことにならなかったことを祈るばかりです。

(森山央朗 事務局長)

『日本中東学会年報 (AJAMES)』編集委員会報告

1. 32-2 号 間もなく発送、33-1 号 現在編集中

32-2 号は間もなく皆様のお手元に届く予定です。また、33-1 号につきましては、昨年の 12 月 1 日に投稿を締め切りました。投稿数は、7 本（うち英語 2 本、日本語 5 本）でした。間もなく審査作業が完了するところです。

2. 33-2 号 投稿募集中

33-2 号の締切は 6 月 1 日です。論文、研究ノート、書評等さまざまなジャンルでの投稿をお待ちしております。とくに欧文での投稿を推奨、歓迎しております。また、英文による特集の企画がありましたら、ぜひご投稿ください。

3. 博士論文要旨

AJAMES では、会員による中東関連の博士論文要旨（英文）を掲載しています。とくに締切を設けておりませんので、最近博士論文を提出された会員の方は、随時ご投稿ください。また、お近くに中東関連で博士論文を提出された方がいらっしゃれば、ぜひ投稿を呼びかけてください。

4. AJAMES 英文投稿規程(AJAMES Guidelines for Contributors)の改定および AJAMES 英文執筆要領(AJAMES Style Guide)の新規作成

このたび英語版の AJAMES 投稿規程(AJAMES Guidelines for Contributors)を改定、さらに英語版の執筆要領を AJAMES Style Guide と題して新規に作成しました。両テキストは学会ホームページの英語ページに掲載されています。

本誌に関するお問い合わせ先、原稿投稿先は以下のとおりです。

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

日本大学文理学部史学科 粕谷元気付

『日本中東学会年報』編集委員会

ajames-editor@james1985.org

(AJAMES 編集委員長 粕谷 元)

寄贈図書

【単行本】

辻明日香『コプト聖人伝にみる 14 世紀エジプト社会』山川出版社、2016 年

山本須美子編著『ヨーロッパにおける移民第 2 世代の学校適応：スーパー・ダイバー
シティーへの教育人類学的アプローチ』明石書店、2017 年

マイケル・L・ロス『石油の呪い：国家の発展経路はいかに決定されるか』松尾昌樹、
浜中新吾共訳、吉田書店、2017 年

【逐次刊行物・ジャーナル等】

『季刊アラブ』第 158 号（特集 トランプの中東）（2016 年）

（森山央朗 事務局長）

会員の異動（2016 年 10 月以降）

【新入会員】

向井 智哉

山下 瑤子

山崎 暁

澤口 右樹

岡室 美恵子

Kai-Henning Gerlach

徳永 佳晃

早川 英明

Al Hassan Y. Al Manakhrah

Almaddah Amr Reda

Tariq F. Elyas

【所属先・連絡先の訂正・変更】

若松 大樹

(森山央朗 事務局長)

事務局より

現在（2月上旬）、評議員選挙の投票用紙がバラバラと事務局に返送されてきています。この後、選挙管理委員会の監督の下で集計作業を行い、その結果として選ばれた評議員による理事選挙を経て、2月の下旬から3月上旬に來期（第17期）の理事が確定します。

ということで、これが私の書くものとしては最後の「事務局より」になります。それにしても、事務局は慣れぬ業務の連続で、やはり大変でした。選挙に関してもバタバタし通して、会員の皆様にはご迷惑をおかけしております。しかし、任期があるのは良いもので、それももうすぐお終いです。とはいえ、事務局が2年交替で動くことは、事務経験の蓄積や効率化の面からは問題も大きいです。この2年間、やはり固定の事務局と専属の事務員が望まれるとしばしば思ってきました。もちろん、それらを確立する作業を誰がどのように担うのかがさらに大きな問題で、私は絶対にイヤだなあとも強く思ってきました。そうこう思ううちに任期が過ぎゆき、諸々の問題もめでたく先送りできるのですが、組織とはそのようなものかもしれません。

次の事務局がどこに行くのかはまだ分かりませんが、どなたかが担わなければならないわけで、会員の皆様には、これまで以上のご支援をお願いいたします。

(森山央朗 事務局長)

編集後記

多治見市で開催された公開講演会、テーマも時機を得たもので、なかなかの盛会ぶりが伝わってきます。ご担当の山岸理事、ご苦労さまでした。また、ご多忙の合間を縫って韓国中東学会の年次大会に参加された森山事務局長、お疲れさまです。

5月に九州大学で開催される年次大会の暫定プログラム、いかがでしたでしょうか。今年も興味深いテーマがいろいろと並んでいます。次号にて、最終プログラムと詳細なご案内をお届けいたしますので、どうかみなさま、ふるってご参加ください。

ちょうど、評議員・理事選挙の最中だと思います。次号にて選挙結果の速報をお届けしたいと思っておりますので、お忙しいこととは存じますが、ご投票をよろしくお願い申し上げます。

(松本弘)